

巻頭エッセイ

ヤン坊マー坊天気予報

梅垣直也

ヤンマーパワーテクノロジー株式会社
取締役 特機事業部
船用営業部 部長



この「作業船」を手にとられている盛夏の頃には日本のみならず全世界が新型コロナウイルスの終息を迎えていることを祈りながら執筆しております。改めまして犠牲になられた多くの方々のご冥福を祈り、また最前線で危険を顧みず強い使命感を持ち戦い続けておられる医療関係の方々には最大の敬意を表し感謝を申し上げます。

原稿の依頼を受けたのが4月初めで世の中全体が先の見えない不安感に駆られており「果たしてどんな内容にするのがふさわしいのか」と悩みました。結論としては、あまりシリアス過ぎてもどうかと思い（もっともそんな高尚な話題は寡聞にして存じ上げませんが）ここは気軽に読んで頂ける能天気な明るい話題がかえっていいのかと考え「それでは能天気ついでに天気予報の話題にしよう」と無理やりさせて頂きました。

弊社のキャラクターとして長年に渡り親しみ頂いております「ヤン坊マー坊」のお話をさせて頂きます。

ご存知のように双子の兄がヤン坊、弟がマー坊です。誕生日は天気予報がスタートした昭和34年気象記念日にあたる6月1日ですので今年で61歳となります。時は戦後高度成長期、岩戸景気の真ただ中、三種の神器の一つであるテレビの普及にあわせて「天気予報を通じて、日本全国の方々のお役に立ちたい」という想いを届けるため、「ヤン坊マー坊の唄（♪僕の名前はヤン坊、僕の名前はマー坊、二人あわせて～♪）」とともに始まりました。唄の作詞は当時宣伝部長の能勢英男、作曲は『りんご追分』『365歩のマーチ』などで知られる作曲家の米山正夫先生です。

「ヤン坊マー坊」のキャラクターは誕生当初から一貫してアニメーターの中邨靖夫先生に描いて頂きました。中邨先生が19歳の時に偶然まわってきた仕事だったので。職場の先輩達が忙しくて手があかなくて「おい、お前、行ってこい」って言われてヤンマーの本社に打合せに行ったそうです。元気で・明るく・みんなに愛されるキャラクターを作ろうと必死に考え誕生した「ヤン坊マー坊」を、それから2018年に78歳で他界されるまで実に59年間に渡り一人で描き続けて頂きました。

「ヤン坊マー坊天気予報」としては1959年（昭和34年）から2014年（平成26年）までの55年間の長寿記録となる放送でしたが、時代と共に二人のキャラクターの体型も

変遷が見られます。初期は現在とは異なり、ヒョロヒョロと背が高くスマートでしたが、1964年（昭和39年）東京オリンピックのあたりから二頭身の頭でっかちとなり、1999年には現在と同じ三頭身のぼっちゃりタイプに変わっております。その間7回に渡り二人は刷新されており、それに加えてアニメーションは季節に合わせて3か月ごとに更新されるため数えることが出来ないくらいの多くのバージョンがあります。放送開始後10年で全都道府県を網羅することが出来、主に夕方の時間帯に放送されたため多くの皆様に見ていただくことが出来ました。しかし時代の流れとともに天気情報というものに求められる質自体が大きく変化し「ヤン坊マー坊天気予報」も一つの役割を終えたと考え2014年に終了いたしました。

確かに昨今は気象予報士が詳細に天気図を説明し、降水確率や気温・湿度のみならず細かい情報まで教えてくれます。ネットを見れば更に詳しく分かり減多に外れることもありません。しかし当時の予報は「兵庫県南部の明日は雨でしょう」だけで明日の運動会はどうなるのか不安で、小学生が出来ることはテルテル坊主を軒先につるして予報が外れるのをひたすら祈るしかできなかった。でも今の小学生はピンポイントの天候を細かく時間を分け知ることも出来るので、ドキドキしながら寝床に入る必要もなくなりました。ある意味情緒がなくて少し寂しく思いますね。

そういうことで2014年の終了後は「ヤン坊マー坊」もお目にかかることが減ったのですが、昨年60歳還暦の節目に10年ぶりにバージョンアップし一層若返って再登場しました。サラリーマンでいえば定年再雇用ということになります。と言っても天気予報ではなく、滋賀県長浜市にあるヤンマーミュージアムにてお待ちいたしております。少しここで紹介させていただきますと、創業100周年を記念し2013年にオープン致したミュージアムを昨年9月に、未来の社会を担う子どもたちが、見て・触れて・体験しながら学ぶことができるチャレンジミュージアムとしてリニューアル致しました。そこで皆様のご案内役としてアニメの中で活躍いたしております。是非ともお子様連れでお越しください。最後になりますが天気予報風にまとめさせていただきますと「明日は全国的にコロナ一過で晴れでしょう」ご自愛ください。